

2023（令和5）年度 京都大学 入試問題 理系 第2問 解答例

問一

死者の忘却は、生者の純粋な生を常に新しくする死者の記憶の持つ意義を奪い、死者の真の死となると思われるから。

問二

結核療養所で生活する病人たちは、死が常に最も不幸な関心事であり、自己の死の予想に苦しみ、不安に耐えきれないため、厳粛な他者の死にも真に悲しみ得ないということ。

問三

筆者は、小山わか子の歌集を読み、その生の類ない美しさに感動し、死を深く悲しんだ。苦しみ不安を抱く精神生活は生の普遍性であるから、自己同様に他者の死をも悲しむ心は、生を惜しむ心であり、自己の生を減じはしないということ。